

パンタナル通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2016年9月1日 156号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



第2回国際青年ボランティア隊

斧、鉋、スコップを手に、開墾体験



レダの養殖池に入り、魚を集める作業。



フェルテ・オリンポの子供たちと。



サン・ミゲル小校舎ペンキ塗りの奉仕。

奉仕を通して心を結び、学び合う

七月四日から十八日まで、第二回国際青年ボランティア隊が、パラグアイを訪れ、フェルテ・オリンポ、レダ基地等で、奉仕活動や体験作業に汗を流しました。今年のチームは、ニュージーランド、パラグアイ、アメリカ、日本、カナダ、ホンジュラス、コロンビア、ブラジル、アルゼンチン、デンマーク、韓国の十一か国から来た二十一名の編成です。いずれも主体性と協調性に富み、文化や社会的風習の異なるパラグアイ各地の住民たちともたちまち打ち解け、相互に新鮮な学びの場となりました。一行は首都アスンシオンをバスで出発し、メノール教徒たちが建設したローマ・プラタの町を見学。さらにバジェミ港に移動して(六日)、ボートに分乗、フェルテ・オリンポに到着しました。オリンポの町では地元の学生たちと共同で植樹活動を行い、その後サッカークの対抗試合で楽しく汗を流し合いました(七日)。

翌日、サン・ミゲル小学校に行き、生徒たちも力を合わせて、校舎の修理、ペンキ塗装、壁画制作、そして最後に夕方暗くなるまでパワフルにサッカーをしました。

九日は、別の学校の周辺に百三十本のニーム苗を植え、午後は子供たちとフリスビー、ギター、会話などで交流。午後はカトリック教会の聖堂を訪問して祈りを捧げ、その帰路、パンタナルの夕日の美しさに感動しました。

十日はゲーリング師による日曜礼拝が捧げられ、驚くほど大勢の地元民が参加しました。午後はまたサッカークの試合をし、夕方のお別れ会で、歌、ダンス、武道などを披露。全員にとって、忘れ難い記憶になりました。

十一日はレダ基地に移動し、以後の五日間、レダのプロジェクトの精神と歴史を学びながら、養殖、魚処理、開墾、タロイモ収穫、釣り、乗馬など、基地スタッフの指導を受けて実地体験しました。そして十五日の夕方、貨客船アキダバンに乗ってレダを発ちました。

首都に戻って、十八日の午前、フアン・アフアラ副大統領を訪問。笑顔で迎えてくれた副大統領にタロイモをデザインしたTシャツ等をプレゼントし、パラグアイでの密度の濃い、生の体験を報告しました。

(写真・文＝The Leda Settlement ブログ記事より要約)

第二回国際青年ボランティア隊



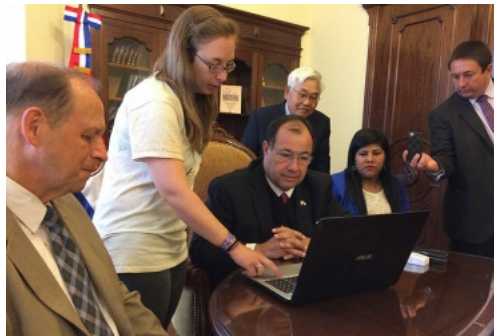
ペンキを塗った、サン・ミゲル小学校にて。



11か国からやって来た、21人の国際ボランティアチーム。



タロイモデザインのTシャツ



アフアラ副大統領に活動を報告。



一斉ジャンプ。気持ちよさそう！



アキダバンに乗ってバジェミへ。



思いのこもった壁画を完成。葉は手形。



包丁を持って、パクーの冷凍前処理作業。

員の家族がレダを訪れました。学校の冬休みにレダを見させてやりたいたの強い希望で五人の子供を連れて来られました。（写真右）



夫人と末のこども。



国会議員の家族がセスナで到着。

国会議員の家族が来訪 七月二十一日から二十四日まで、ペドロファン選出の国会議



バイア・ネグラのカトリック教会を訪問。



ヤシの木を伐採する体験。



佐野氏がレダプロジェクトを説明する。



ディアナの学校を訪問。



レダ公館にて牧師夫妻たちと佐野氏。

国際協力青年奉仕隊体験記

奉仕するというのは、愛するということですよ！

第十三回国際協力青年奉仕隊に参加した金子都美（さとみ）さんが、八月六日のパンタナール一日研修会で、その体験談を報告し、多くの参加者たちが感銘を受けました。以下、要点です。

二〇一三年八月二十四日から、九月十一日まで、姉と一緒に、日本人十三名、ブラジル人五名の計十八名で、国際協力青年奉仕隊に参加して活動しました。

パラグアイはどこに行っても、そこに豊かな大自然がありました。見たことのない動物や植物がたくさんありました。また、生まれて初めて天の川を見て、これが星空と言うんだ！と感動しました。この期間、奉仕と体験活動、学習や観光などをしましたが、その中で特に心に残っていることをお伝えします。

●トロパンパ村での奉仕活動 「よし、奉仕を頑張るぞ！」と意気込んで日本を出発しましたが、実際に行ってみると、まず言葉が通じません。現地の言葉はスペイン語かグアラニー語。日本語はもちろん、英語も通じません。話したい、伝えたいのに通じない、こんな葛藤がありました。伝える方法はジェスチャーのみ。しかし彼らはそんなことは一切気にせず、笑顔で話しかけてきました。小さい子供たちは周りにやってきて、村のことを案内してくれました。

このトロパンパ村は内陸にあつて、雨が三カ月にもわたって降らない乾いた土地でしたが、私たちが行ったらその貴重な水も惜しまず使ってくださいました。

植樹をし、折紙やダンス等をして交流することを通して、私が感じたことは、奉仕というのは愛するということです。同じ地球上に住んで

いる者同士が助け合い、協力しあうこと。しかし、家族であるなら、それは助けるといふのではなく、正に協力です。愛と愛の繋がりによって協力する。その様な関係を築き、行っていくことだと思いました。

●レダ基地 私レダ基地の古い写真は見たこ



苗木とともに愛を植える。右から二人目が金子さん。



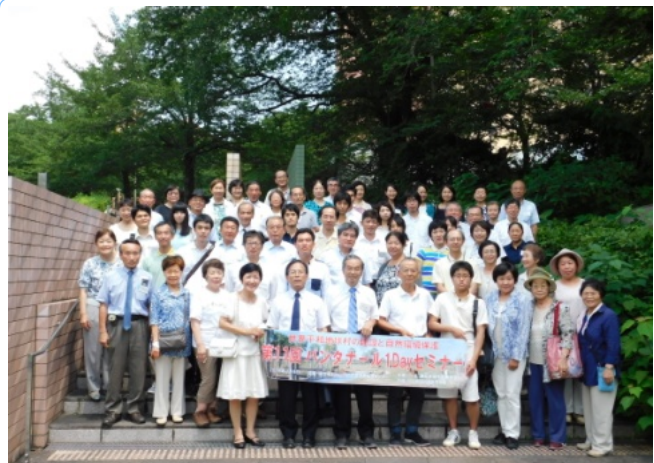
折り紙教室

が、体力的にも技術的にも、一本切るのがやつのことでした。

そのような環境の中でも、文先生のビジョンを実践し、変わることなくずっと活動を続けてこられた姿、不屈の歩みに感動しました。そして、周辺の村や町への奉仕を続け、信頼関係が築かれ、今では養殖や水耕栽培を通して、政府との繋がりや国立大学との協力もできているといえます。一つ一つ実践し、行動することで人も環境も変化することができると実感しました。それを成せるのは、信念を持つてやり続けること、変わらない決意だと思います。しかし、そのもっとも根本には世界人類を愛し救いたいと活動された文先生の、自分のためではなく、他の人の為への夢やビジョンがあるからこそだと思えます。より大きな目標は行く道も大変ですが、それが大きければ大きいほど、人を引き寄せて大きな力を生みます。

このレダがどんどん変わっていくように世界が変わっていったらと思います。レダは正に理想郷のモデルの場所だと思いました。（金子記）

とがありましたが、実際に行ってみると、全く何もなかった土地が、一からここまで姿になったのはすごいとしか言いようがありません。開墾地では、無数に生えてくるヤシの木を斧で切り倒す体験をしました



定番の記念撮影は国際交流棟前で。

て、本日も若い人達が多く参加しているのが希望的です。植樹について、世代交代しながら繁殖し続け、防災などの役割も立っ、タブノキなどの常緑照葉樹を植えて行くこと、これら大切なことだと思

第11回パンタナール One Day セミナー

八月六日(土) 午前十時二十分より、東京代々木の国立オリンピック記念青少年総合センター国際交流棟二階研修室において、第11回パンタナール一日セミナーが開催され、酷暑の中にもかかわらず、50名が参加しました。

講義は柴沼邦彦講師による「レダ・パンタナールにおける理想郷建設(前半)」から始まり、昼食をはさんで高津啓洋講師による「地球環境問題救済の道」、第13回青年奉仕隊参加者による体験報告、青年局の活動報告、再び柴沼講師による後半講義、各講師を囲んでのグループ別懇親会へと進行し、午後五時に終了しました。

参加者の感想文より ●日本では絶対に見られないもの、感じられないものが、レダには有るんだなと感じ、とても興味と関心を持ちました。(男性) ●子供たちにも、大自然の中で神様を感じてもらいたいのと思います。まず私自身もつと緑や動物に関心を持つて生活して行くこうと思います。パンタナールの地に関心が出ました。(女性) ●世代を超えて次世代へ相続されて行くこうとしてい



タブノキを囲んで、本物の森づくりの講義。

さい苗ではない。それでもタブノキみたいにしつかり成長すれば、あんなに大きくなれるんだ。人も植物も同じだと言われたその一言がすごく心に残りました。(女性10代) ●ぜひ生きていく間に、妻と一緒にパンタナールに行きたいと思いました。(男性20代)

女の教育ができるんだなあと感じます。丸のみ精神にも感動しました。(女性50代) ●荒地に播かれた種が、今振り返ってみると、天の導きが手に取るように見えてきました。歴史はこのように綴られ、残つて行くのだと確信し、いかにして後継者にこの精神と希望を伝えるのかと考えて、あの人この人に述べ伝えてみたいという思いが駆け巡りました。(女性) ●若い方々が育っていることが本当にうれしかったです。自然をよみがえらせてこそ、人間の幸福もまたあるのだと感じます。(女性) ●私も自分の住んでいる場所で、パンタナール精神で赦し、愛し続けて行こうと思います。(女性40代) ●私たちが最初は小さい苗でしか



感動の涙を誘った講義。

ました。(男性) ●この素晴らしいモデルケースが、さらに洗練され、発展して行き、パラグアイだけに留まらず、世界の希望となるよう応援いたします。(男性50代) ●レダに夫婦で行きたいし、また子供たちを送りたいです。大自然の中でこそ、次世代を担う子

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

ゆうちょ銀行(旧一般会員会費納入)

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: http://asd-nsa.com

会員種別

◆会員一口1000円/月

◆特別会員一口1万円/月

◆法人会員一口1万円/月

※いずれも口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座 ゆうちょ銀行

00290-5-113072

加入者名: シヤ) 南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥入会申込書は、左記の事務局にお申し付けください。ホームページからも入手できます。

お便り募集



読者の皆様からのお便りを募集します。本紙記事へのご感想や提案、皆様個人やご家庭での歩み、あるいはグループや支部での活動と関連写真、イラストなどをお待ちしています。宛て先は、事務局 office@asd-nsa.com へお願いします。